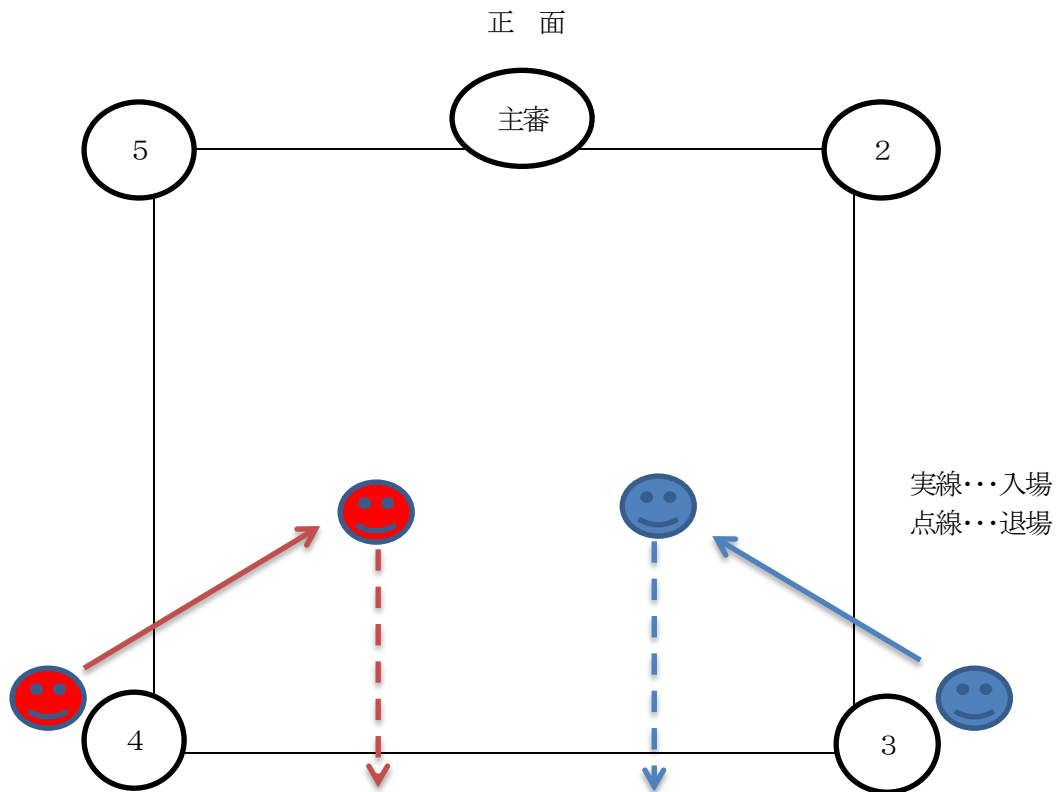


形の礼法について



- 1 選手は第4審(赤)、第3審(青)の後方で準備し、呼名を待つ
- 2 呼名後、返事をしコートへ斜めに入場する(入場の礼はない)
- 3 入場後、それぞれ正面に礼をし形名を宣告し形の演武開始
(お互いに礼はなし、審判は開始の笛も吹かない)
- 4 演武終了後、選手は演武終了の礼をした後、コート外に退場し判定を待つ。
- 5 判定後、お互いに礼、正面に礼をし第4審(赤)、第3審(青)の後方へ斜めに退場
- 6 よって、入場し形開始の礼①、演武終了後の礼②、判定後お互いに礼③、正面に礼④の計4回とする。
ただし、競技規定上勝敗に関する例は、最初の①②のみとし、③④を忘れた場合、しなかった場合は、その時の審判団で礼をするよう促す。

競技場の留意点

- 1 形演武の際に、開始の礼・演武終了の礼を抜いた際は反則となる。主審は必ず副審を集め確認をすること。
- 2 それ以外の礼を抜いた場合は審判が選手へ礼を促す。また、多く礼をした場合については特に採点の判断に入れない(学童および幼児であることを踏まえ許容する)
- 3 形名が聞き取れなかった場合は、主審が手で合図をし演武を止め、再度言わせるもしくは直接聞くなどして、場合によっては確認をおこなう。(1・2回戦であるケース)